

# 「ポスト分析的エスノメソドロロジー」から見えてくるもの

—— ガーフィнкелの研究を主たる素材として ——

青森大学 中村和生

## 1. 目的

本報告は、H. ガーフィнкелによるエスノメソドロロジー研究を中心に、エスノメソドロロジー研究の一端をプロトエスノメソドロロジーとポスト分析的エスノメソドロロジーという分類、並びにその分類基準(Lynch 1993)から検討する。これを通じて本報告は、エスノメソドロロジーにおける技法などの変遷のいくつかを例証するとともに、その意義についても明確にすることを目的とする。

## 2. 方法

ガーフィнкелによるエスノメソドロロジー研究は、上記に挙げたプロトエスノメソドロロジーとポスト分析的エスノメソドロロジーの分類基準からすれば、『エスノメソドロロジー研究』(Garfinkel 1967)を時系列上の境界として2つに大別できる。また、『エスノメソドロロジー研究』以降のガーフィнкелの経験的研究は自然科学の研究(Garfinkel, et al 1981)が多くを占めるため、対象領域が自然科学かそれ以外かということも考慮すべきことである。本報告では、これらの区分から整理したガーフィнкелによる研究を中心に検討する。

## 3. 結果

ポスト分析的エスノメソドロロジーとは、個々の実践の具現的行為から学問的「分析」を切り離すことが可能だとするプロト・エスノメソドロロジー的態度をとらないことを主軸とし、その基準は科学的合理性と常識(日常)的合理性の排他的区別の拒否、ならびに相互行為を扱う際に行為者に付与される認知主義的前提の拒否にある(Lynch 1993)。前者の観点からは、これによる科学観の変遷にあたっては、統計調査を題材とした社会科学研究をその萌芽として、さらには、実験室研究などの科学の社会的研究におけるガーフィнкелやシュッツへの直接的な批判を触媒として捉える可能性が導き出せる。後者の観点からは、主にシュッツの現象学のアイデアを、個人の主観的意味の生成から、そうした個々人の行為が織り成されることで生じる相互行為秩序の解明へと利用可能にしていく方向性に注目でき、また、そこに分析技法の非連続な展開を見いだすことができる。

## 4. 結論

上記の二つの結果から、いくらかの意義を引き出すことができる。一つは、新たな科学観の下に展開された経験的研究は非懐疑主義的なウィトゲンシュタイン解釈と整合性がよく、またその点で他の科学の社会的研究で大きく異なり、経験的研究の持続的展開の下支えともなっているとみなせる、ということである。もう一つは、現象学のアイデアを経験的研究に生かそうとした、方法的精密性を重視しない模索ともみなせる期待破棄実験と異なり、サックスにより生み出された技法がウィトゲンシュタインや日常言語学派の哲学による概念分析による手法と整合的であり、そして、それらが記述の下での理解と概念の規範的連関を特徴とするがゆえに、相互行為秩序はもちろんのこと、その他の多様な現象を解明する道具立てとしても極めて有効である、ということである。

## 文献

Garfinkel, H. 1967 *Studies in Ethnomethodology*. Prentice Hall.

Garfinkel, H., et al. 1981 "The work of discovering science construed with materials from optically discovered pulsar," *Philosophy of the Social Sciences*(17):131-158.

Lynch, M. 1993 *Scientific Practice and Ordinary Action*. Cambridge University Press. 水川・中村(監訳)『エスノメソドロロジーと科学実践の社会学』勁草書房 2012.